



教材の内容を生かしたねらいを設定して、「ああ、そんなことあったなあ」「こんな思いや考えが大事なんだなあ」と、  
児童が自分の気持ちに素直に向き合えるような授業を



「授業②」へ

「授業①」から課題となり得ることについて整理してみましょう。



課題となり得ること

【導入】

児童の経験を想起させることが多いが、個々それぞれ異なる経験から「主題」と結びつけることが難しい場合がある。

【展開前段】

登場人物の内面が変化する場面、登場人物に共感しやすい場面等の教材分析が不十分であるため、登場人物の内面について考えを深めづらい。

教師（問）⇄ 発表者

（答）の繰り返しで授業が進行し、個の考えが共有されず、学級一人一人の思いや考えが広がったり深まったりしづらい。

【展開後段】

学習指導要領の内容項目や主題名をそのまま用いた発問は唐突感があり、自己を見つめたり生き方を考えたりすることが難しい。

ねらいと授業への関わり

◎ねらいである「相手の思い受け入れ、尊重しようとする」ことの大切さについてこれから学習するのだという、授業の方向性を児童につかませることが重要です。  
そして「どんな授業になるんだろう」「はやく教材を読みたいな」と児童の学習意欲を引き出すことができる導入を考えましょう。

◎教材文をよく読み、教材分析することが大切です。

本時のねらいに直接迫る中心発問の場面はどこか、そして、それを支える基本発問として、児童が自我関与し共感しやすい場面はどこかを考えます。

中心発問でねらいとする価値に関して児童にじっくり考えさせますが、基本発問によって児童の考えを明確にし、さらに深めさせるようにします。

◎発表者の発言を他児童につなげ、多面的・多角的に考えさせたり、グループで考えを交流し、様々な考えや思いがあることを気づかせたりすることが大切です。

◎展開前段で、自分事として考えを深めてきたねらいについて、さらにしっかり自分の心と向き合えるように、児童の思考の流れを大切にしたい発問を用意しましょう。